

平成 28 年度 第 2 回まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

○ 日 時

平成 29 年 2 月 20 日（月）午後 2 時～4 時

○ 会 場

諏訪市役所 大会議室

○ 出席者

<まち・ひと・しごと創生有識者会議委員>

中嶋博美委員、岩波寿亮委員、青山正博委員、倉田紀子委員、牛山久仁彦委員、
山崎三千代委員、佐久秀幸委員、金子ゆかり委員

<まち・ひと・しごと創生本部>

平林副市長、小島教育長、関総務部長、河西企画部長、伊藤市民部長、関健康福祉部長、
飯塚経済部長、木島会計管理者、宮下水道局長、土田教育次長、金子都市計画課長（代理出席）

<事務局>

前田企画政策課長、伊藤企画政策係長、牛山企画政策係主査、小松企画政策係主任

○ 欠席者

柳澤慶子委員、宮坂友子委員、宮坂勝太委員、今井高志委員、坂内陽子委員、藤沢晃委員、
林直樹委員

○ 会議概要

1 開会

（河西企画部長）

- ・第 2 回諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催する。総合戦略に掲げた KPI の進捗状況について確認をいただくことになる。
- ・会議開催に先立ち、会長である金子市長よりご挨拶申し上げたい。

2 市長挨拶

（金子市長）

- ・本日はお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。
- ・委員各位にご協力いただき平成 27 年 12 月に決定した諏訪市版総合戦略に基づき、様々な施策を展開している。総合戦略の特徴は、KPI（重要業績評価指標）を設定し、施策の達成状況を目に見える形で示すとともに、外部有識者の皆さんから意見をいただき、総合戦略や事業の効果を検証することにある。
- ・総合戦略策定から 1 年余りが経過した。KPI の達成状況や施策、事業の進捗状況について、検証を行うことで、PDCA サイクルを確立する。

- ・今回の会議では、効果検証結果や改定案について説明させていただく。それぞれのお立場で忌憚のないご意見をいただきたい。

3 協議事項

(金子会長)

- ・協議事項に先立ち、定足数の確認について事務局よりお願いしたい。

(事務局)

- ・有識者会議の委員数 15 名のうち、本日出席の委員は 8 名となり、半数以上の出席であることから定足数に達していることを報告する。

(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

(金子会長)

- ・それでは、「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」、事務局より効果検証手順について説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.1 に基づき説明

(金子会長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。
(意見等なし)

(金子会長)

- ・それでは、総合戦略の効果検証結果の詳細について事務局より説明をお願いしたい。一之柱から四之柱まで、柱ごとに説明、質疑応答を行いたい。

(事務局)

※資料No.2、資料No.3 に基づき、一之柱の効果検証について説明

(金子会長)

- ・効果検証結果について、質問・意見をお伺いしたい。

(A 委員)

- ・「インターンシップ受入人数」の目標値、実績値ともに 10 人であるが、少ないのではないかと。もっと増やすことはできないのか。

(事務局)

- ・平成 27 年度よりインターンシップ促進支援事業を開始しているため、今回の数値は初年度の実績となる。今後は、企業等からの意見聴取などを通じて、制度を PR するとともに、地元就職へのきっかけづくりとしたい。

(A 委員)

- ・インターンシップ促進支援事業の具体的な内容について確認したい。

(本部長)

- ・平成 27 年度は 10 人という実績となった。企業に対しては、景況調査を通じて、インターンシップの受入れが可能かどうか確認を行っている。大学や高校等に案内を行い、学生の

希望があれば、1日1人3,000円を企業に対して補助金として交付して、受入れをしてもらっている。

- ・平成29年度は、企業からの要望を受け、インターンシップの受入期間を3、4日程度から1週間程度に長くしたいと考えている。

(A委員)

- ・補助金は企業に対してのものか。学生には補助金は出していないのか。

(本部員)

- ・学生には補助金は交付していない。

(A委員)

- ・大学生はあまりお金を持っていない。都内の学生は東京都内でインターンシップを受けてしまうのではないか。学生に補助金を出してもインターンシップに来てもらうべきだと思う。
- ・先日、リケジョ（理系女子）の雇用応援事業を実施するとの新聞報道があった。リケジョが諏訪地域に来てくれることは望ましいことであるが、女性がキャリアを積んで仕事を続けることができる企業が諏訪地域にどれだけあるのか、市として把握をしているのか。

(金子会長)

- ・女性が働きやすい職場環境の整備を進めるために、「くるみん」認定や「社員の子育て応援宣言！」登録をした企業に対して奨励金を交付している。
- ・子育てや介護も含めて、働きやすい環境をつくるのが、人手不足の中、企業が労働力を確保するために不可欠であるということ共有していきたい。

(A委員)

- ・女性がキャリアプランを立てることができる企業がどれだけあるかということ、例えば管理職を目指すことができる企業なのか、能力を活かせる会社なのかどうかということを知りたい。

(金子会長)

- ・企業としても意識を持ってもらうことが重要である。今後、企業としてそうした体制を整えていくことが必要であると考えている。アイデアなどあればお聞きしたいと思う。

(A委員)

- ・優秀な女性は、企業の状況や中身を把握してから就職活動にチャレンジする。例えば管理職で子育てをしている女性が何人いるのか、既婚者が何人いるのかを見極めてからチャレンジしている。
- ・企業に対しても、どのような職場環境が必要となるのか、市としてメッセージを発してはどうか。

(金子会長)

- ・リケジョについて、技術職の求人数に対して求職者数は半分に満たない状況にある。事務職は充足している。諏訪地域の企業は技術職が不足している中、首都圏から技術職の女性に就職してもらうことが目的である。子育て環境も都市部よりは充実していると考えている。
- ・管理職を目指すのか、技術職で研究を進めていきたいのかは、企業とのマッチングによる

と思う。まずは諏訪市の企業を知ってもらうことからはじめ、最終的には諏訪市に就職してもらうことを目指していきたい。

(B委員)

- ・企業としても優秀な人材に来てほしいと必死に考えている。大学での就職ガイダンスには多くの企業が参加している。
- ・地元に戻りたいという学生は潜在的にはたくさん存在している。しかし、地元に戻にしても、働く場所、受け皿がないため、帰りたいけど帰れないという状況にある。
- ・どのような人材を、どのような場所に求めていくのか、行政サイド、企業サイドともに明らかにして発信していく必要がある。自然環境や労働環境など、この地域であれば快適に働き、暮らすことができるということを示すべきである。
- ・総合戦略に基づき受け皿をどのように整備していくか、インターンシップ促進やリケジョの雇用など、受け入れる側としてどのように地域の特色を出していくか、地域の特色を効果的に発信することができれば、諏訪市は東京との距離感も含めて、魅力ある場所であると思う。

(金子会長)

- ・目標は若い世代に諏訪地域へ就職してもらいたいということである。ダイレクトな結果ではないが、「大学卒業者等就職ガイダンス延べ参加者数」や「インターンシップ受入人数」を KPI としている。

(C委員)

- ・「大学卒業者等就職ガイダンス延べ参加者数」には、民間主催の就職説明会の参加人数は足されているのか。

(事務局)

- ・民間主催の就職説明会の参加人数は含まれていない。

(本部員)

- ・諏訪市が主催、労務対策協議会と共催した就職ガイダンスの参加者数としている。諏訪市として数字を把握することができるものを指標としている。

(D委員)

- ・「大学卒業者等就職ガイダンス延べ参加者数」について、都市部の景気が良く、新卒者は都市部で就職しているため、地方で開催される就職ガイダンスへの参加者が少ないということも要因であると分析できるのではないか。
- ・売り手市場であり仕方がないことではあるが、企業としての努力は当然必要である。就職活動の解禁時期変更の影響もあるが、人手不足で都市部に人材を取られてしまっているということが、KPI を達成できなかった一因でもあると思う。

(金子会長)

- ・有効求人倍率は 1.0 倍を越えているが、人口減少の影響もあり常時人手不足の感がある。ご指摘のとおり、社会情勢等に対する現状認識を加える必要があると思う。

(E委員)

- ・一之柱の数値目標「市内事業所従業者数」と「市内民営事業所数」について、減少要因は何か考えられるか。

(本部長)

- ・リーマンショックを受けて、事業所数や従業者数は大きく減少したが、近年は徐々に回復しつつある状況ではある。
- ・平成 28 年度に制度資金改正を行い、企業活動の支援を進めている。現段階で前年比 150% の利用率となっている。開業支援資金についても要件見直しなどにより、利用件数は大幅に伸びてきている。
- ・工業については、景況調査を行う中で人材が欲しいという声を伺っている。都市部での就職ガイダンスは費用負担が大きいことから、大学訪問を行っているのが現状である。そこで、平成 29 年度はリケジョを対象とした職場体験や見学会を開催することで、肌で諏訪市を体感するとともに企業を見てもらい、自らとマッチングするかどうかを判断してもらいたいと考えている。
- ・経済状況の変動もあるので、数字的には厳しい部分はあるが、諏訪市としてどのような取組をするべきか、一つひとつ検証しながら進めているところである。

(金子会長)

- ・リーマンショックや円高を受けて、国外に事業所を移転した企業も多かった。製造業については、最先端の技術開発を見据えることができる地域性を生かしていきたいと考えている。ご指摘のとおり、数値目標の変動要因については把握できるように意識していきたい。
- ・諏訪市の製造業従事者数のシェアは減ってきており、サービス業への従事者数の割合が高くなってきている。

(事務局)

※資料No.2、資料No.3に基づき、二之柱の効果検証について説明

(金子会長)

- ・中国人観光客は前年対比 40%ダウンとなっている。団体客から個人客へと変化する途中経過であるとのことだが、今後は KPI の実績値にも影響が出てくると思う。

(C委員)

- ・観光客入込数の増加には宿泊の問題がある。民泊に対する規制緩和などにより宿泊場所が増えることから、外国人旅行者も今後若干は増えてくるのではないかと。
- ・いわゆるゴールデンルートから諏訪地域は少し外れているということで懸念はあるが、DMO なども含めて諏訪地域 6 市町村が同じ方向を向いていれば、観光分野における可能性は大きくなると思う。

(E委員)

- ・中国人を含めて外国人の団体旅行者は減ってきている。しかし、個人旅行者を中心に総体としては増えている傾向にはある。
- ・長野県はゴールデンルートからは外れているが、例えば東京から大阪まで行くにあたり、東海道新幹線ではなく、北陸方面から長野県を経由してもらおうなど、他の地域を経由して

もらうために、地域の魅力として発信できるものは何か考えるとともに、PR していくことが必要である。

- ・諏訪湖や霧ヶ峰など、魅力的な観光資源に恵まれているが、まだまだ活かしきれていないのではないか。諏訪大社を PR していくには周辺自治体との連携が必要である。
- ・インバウンドを進めるにあたり、ソーシャルメディアの活用も効果的である。外国人観光客が SNS で発信することで、さらに外国人観光客を呼ぶことにつながる。

(F 委員)

- ・観光については、やり方次第で伸びしろはあるのではないか。
- ・諏訪神社は日本各地に分社がある。日本人であれば多くの人が神社に行きたいと思う。外国人に対しても、現地の言葉で発信をすれば、さらに PR ができるのでは。

(G 委員)

- ・限定モノや日本一のなにか、というものに個人的に弱い。最近は御神渡りもできないが、諏訪地域の寒さをアピールするなど、特徴的な部分を PR することで興味を持つ人が増えると思う。

(事務局)

※資料No.2、資料No.3に基づき、三之柱の効果検証について説明

(F 委員)

- ・「保育所の待機児童数」について、どのように算出しているのか。第一希望の保育園に入ることができた場合のみか、または最終的にどこかの保育園に入ることができれば待機児童ゼロとしてカウントするのか。

(本部長)

- ・算出方法は後者である。第 2 希望の保育園でお願いをしている人も含まれている。

(F 委員)

- ・多くの人は公立保育園を希望していると思うが、第 2 希望であっても公立保育園に入ることとはできているのか。

(本部長)

- ・公立保育園に入所できている。

(F 委員)

- ・以前、勤めていた自治体においても、待機児童ゼロを目標としていた。待機児童ゼロを目指すため保育所整備を進めていたが、近隣自治体から子育て世帯が引っ越してくることから、結果的には待機児童を解消することができなかった。
- ・例えば第 5 希望の保育園に決まったとしても、待機児童ゼロとしてカウントされる。待機児童の算出方法も課題であると思う。

(金子会長)

- ・諏訪市内 15 園の保育所のうち、2 園が民間である。

(A 委員)

- ・保育所へ子どもを預けることができる状況であれば働きたいという潜在的な希望者が多いのは、都市部も地方も割合は違っても同じであると思う。

- ・就職が決まってから入園を申し込んでほしいと言われるケースもあり、待機児童ゼロというのが本当かどうか疑問もある。
- ・働いている女性にとって、待機児童がゼロということだけで良いのか。保育所に入ることだけが目的ではなく、子どもたちが健やかに育つことができる環境整備、田舎だからこそできる保育の質を高めていくということが、働く女性にとっても必要なことであり、諏訪市の良さにもつながっていく。

(G委員)

- ・数値目標に市民満足度を指標としているが、市民満足度は何点満点なのか。

(事務局)

- ・市民満足度は市民の皆さんに5点満点で評価をいただいている。

(G委員)

- ・学校教育に満足している人がどれだけいるかどうか感覚的には分からないが、保護者とコミュニケーションを取る中では、様々な場面で悩みを抱えている人がいるのが実情である。
- ・公園の整備について、公園遊具の安全管理をしていることはありがたいが、滑り台などだけではなく、体幹を鍛えることができるような、子どもにとって魅力ある遊具を揃えてほしいと思う。

(本部員)

- ・児童遊園は各区・自治会に維持管理をご協力いただいている。遊具の種類等についてはご意見を参考とさせていただきたい。

(本部員)

- ・都市公園は滑り台やブランコといった遊具が中心である。ご指摘のとおり子どもの遊びにも多様性があるので、今後の遊具整備の中で考えていきたい。
- ・また、都市公園は子どもだけでなく、高齢者にも配慮した施設整備を行っている。

(金子会長)

- ・総合戦略における教育関係の施策は多岐にわたっており、個々の指標では総体を捉えることが難しいことから、市民満足度を数値目標としている。
- ・個々のご指摘については、今後の参考とさせていただきたい。

(事務局)

※資料No.2、資料No.3に基づき、四之柱の効果検証について説明

(F委員)

- ・区・自治会と自主防災組織のエリア分けはイコールとなっているのか。

(本部員)

- ・諏訪市内には90近くの区・自治会が存在しており、それぞれが自主防災組織をつくることになる。枠組みとしては同じである。

(F委員)

- ・区・自治会のエリアから外れている居住地はあるのか。
- ・全てのエリアが区・自治会でカバーされているのであれば、自主防災組織率が100%では

ないのはなぜか。

(本部員)

- ・住居が存在している地域は全て区・自治会のエリア内に含まれている。
- ・自主防災組織の設置について、少人数の区・自治会にはその必要性を認識していない場合もある。市としては、少子高齢化を迎える中で、組織率 100%を達成することを目標としている。
- ・自主防災組織の立ち上げには、区・自治会が防災計画を策定することが必要となる。区・自治会の規約があっても防災計画がないというケースがある。

(F委員)

- ・区・自治会が前向きに防災計画を策定することが求められているということか。

(本部員)

- ・今後も働きかけを継続していきたいと考えている。

(B委員)

- ・四之柱の数値目標は全て市民満足度となっている。目標値は前年よりも向上としているが、今回でいえば平成 27 年の現状に対して平成 28 年の数値が向上していれば良いということか。

(事務局)

- ・前年の数字よりも向上するということを目標として設定している。

(B委員)

- ・KPI の設定は非常に難しく、どこの自治体も苦勞している。
- ・80%以上 100%未満の場合は「概ね順調」との評価であるが、達成度の目安を前年との比較とすると、80%程度の達成度が繰り返された場合、年々市民満足度が低下しているのに、評価としては「概ね順調」となってしまう。

(事務局)

- ・ご指摘のとおりだと思う。
- ・効果検証の方法については自治体ごとに任意である。達成度の基準も曖昧な部分がある。ご意見について参考とさせていただき、市民満足度の最低ラインを決めるなど検討したい。

(金子会長)

- ・平成 27 年 12 月の年度途中で総合戦略が策定されたことから、評価の時期が分かりにくい部分もあったかと思う。
- ・様々な指標を設定しているが、総合戦略の目標は、諏訪地域における雇用創出、社会増や自然増、安全安心の確保などにより、地域の活力を生み出していくことにある。

(D委員)

- ・人口や雇用、移住などについて、諏訪市に限定された KPI になってしまう。
- ・私の会社で移住者を雇用したが、住んでいる場所は原村である。人口や働く場所の問題は諏訪圏域で考えなければならない。例えば諏訪地域の住民同士で結婚した場合、どこかの市町村がプラスとなり、どこかの市町村がマイナスとなるが、このような諏訪地域におけ

る人口の増減は仕方ないのではないか。社会増減についても諏訪圏域の数字を示す必要があると思う。

- ・茅野市に移住して、諏訪市で働いてもらうことも良しとする、広い視野を持った施策を進めてほしい。

(金子会長)

- ・総合戦略は自治体ごとに策定することとされており、KPIの設定も各自治体のもとなってしまうが、ご指摘のとおりであると思う。
- ・諏訪地域内における人口移動は多いので、諏訪市と諏訪地域それぞれの数字を把握していくことも必要であると思う。今後の参考としたい。

(B委員)

- ・諏訪地域は特に広域的なつながりのある地域であり、諏訪圏域として考えていく必要があると思う。広い視野を持つことは重要である。
- ・富士見町や原村は高原であり自然環境にも恵まれており、渋滞もなく、住環境としては優れている。その一方で、諏訪市は一定規模の都市機能を有しており、買い物環境などに恵まれ、暮らしやすいまちであると思う。まずは諏訪市内における状況を踏まえ、どのような移住者を求めているのか、また、富士見町や原村とは異なる特色を持つ都市としての利便性を活かしていくまちづくりが必要である。諏訪市としての特色と、諏訪地域としての特色をそれぞれ意識しなければならないと思う。
- ・出生率の向上が出生数の増加に結び付かないという効果検証結果の説明があったが、いかにも婚活支援といった内容ではなく、女性が婚活イベントに参加しやすくなる取組を検討するなど、きめ細やかな対応といった部分も含めて、総合戦略に基づく施策を進めてほしい。

(金子会長)

- ・続いて、協議事項「(2) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂(案)について」、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

※資料No.4に基づき説明

(金子会長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(C委員)

- ・女性の働く場所の確保は必要なことであるが、それだけの余裕がない企業が大半である。「社員の子育て応援宣言！」登録まで手が回らない。特に、中小企業としては難しい問題であると認識してほしい。
- ・婚活支援について、どこの誰かが分かってしまうため、同じ人が何度も同一のイベントには参加しない。そのために参加者を確保することができなくなる。女性の立場を考えた婚活イベントが必要である。
- ・怒られることを知らない新入社員が多くなっている。上司が少しでも怒ると会社に出てこなくなる社員が増えているという。数値目標にはできないことではあるが、子どものころ

からの教育について配慮してほしいと思う。

- ・今後、高齢化が進み免許返納者が増えることから、二次交通の確保は重要であるが、バスの停留所を私有地に置くことに対する抵抗感が地主にはある。バス停を置くことにメリットがなければ、バス停を置ける場所がますます少なくなってしまう。二次交通は難しい問題ではあるが、諏訪市における公共交通は充実していると思う。

(金子会長)

- ・いただいたご意見は具体的な事務事業の参考とさせていただきたい。

(金子会長)

- ・ご意見等については各施策の担当課にフィードバックさせていただき、効果検証について再検証するとともに、必要な取組等の追加についても検討させていただく。
- ・以上を踏まえて、協議事項(1)、(2)ともに有識者会議としてご了承いただきたいがよろしいか。

(異議なしの声)

(金子会長)

- ・ありがとうございました。
- ・様々な意見やコメントをいただくことができた。今後の事業展開の参考とさせていただく。

4 その他

(河西企画部長)

- ・その他連絡事項について、事務局より報告したい。

(事務局)

- ・現在の有識者会議委員の任期は平成29年6月までとなっている。今後については個別にご相談させていただきたい。
- ・平成29年6月頃、国の地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金を活用した事業の効果検証を予定しており、有識者会議においてご意見をお伺いすることになるので、ご協力をお願いしたい。

5 閉会

(河西企画部長)

- ・長時間にわたりお疲れ様でした。また、様々なご意見をいただきありがとうございました。諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会としたい。